

## 卒業式予行 校長あいさつ 3 / 20

卒業の日まで、あとわずかとなりました。

今日は、まず、5年生の皆さんに、感謝の気持ちを伝えたいと思います。2週間前、つまり卒業式のわずか3週間前、入退場の演奏の変更をお願いしました。それを受け入れてくれたこと自体が感謝なのですが、皆さんが素敵な5年生であることに感謝します。

話が少しそれますが、今、世の中を見渡すと、特に SNS などのネットやメディアを通じた世界で、とても危惧していることがあります。それは、言葉や映像で、相手をけなしたり、落とし込むような風潮が見過ごせない状況であることです。

いわゆる「言葉狩り」や「炎上」が、社会を蝕んでいます。一部の人のことだと思いたいののですが、今の日本には「誰かを叩きたい」「引きずり落としたい」という欲望が充満しているような気がします。

誰かの上げ足をとったり、言葉じりや、人の失敗や過ちを、ここぞとばかりに責め立てたりしているんですね。

人の不幸に付け込んだり、他人を責めることでしか、自分の存在意義を確かめることができないなんて、なんて不幸なことだと思います。

このようなお話をすると、すべてが言い訳になってしまいましたが、話を戻します。一生懸命練習を重ねてきた演奏を直前に変更するということは、望ましいことではありません。できれば避けるべきです。でも、皆さんは「6年生のために」「卒業式のために」ただそれだけで、飲み込んでくれました。本当にうれしく思います。

このことは、頑張った自分が一番ではなく、自分は二番でいいから、他の人を一番にするという他者意識です。他人を押しつけて、自分が、自分が、という意識ではなく、本当に大切なことは何か、他者への思いやりの気持ちが、5年生の皆さんにはあるということです。だから皆さんが素敵なのです。

卒業式も、その思いで、6年生の門出を祝ってほしいと思います。よろしくお願いします。

6年生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業を迎える気持ちは、いかがですか。いよいよ実感が湧いてきたと思います。

さて、あらためて、卒業式って何だろうって、考えてみます。

またまた話がそれますが、私の個人的なお話をします。私が結婚した時のことです。結婚する時に、結婚式を開くことが多いかと思います。でも、卒業式と同じように、結婚式って何だろうと思ったのです。自分たちをお祝いしてもらうために、わざわざ時間を割いて、足を運んでもらうことの意味って、何だろうって。

でも、どなたに来ていただくか、どの方に招待状を出そうか、お一人お一人、思いを巡らせていくと、私自身が、どんなにたくさんの人たちにお世話になり、支えていただいていたか、ということにあらためて気付かされました。こんなに多くの人たちのおかげで、今の自分がいることに気付いたのです。

つまり、結婚式というのは、自分たちをお祝いしていただくという受け身の式ではなく、自分たちがこれまで支えてくださった方々に感謝の気持ちと、これからの将来、責任をもって歩んでいくことをしっかりと誓うための式なのだと思いました。

まさに、卒業式も同じです。だから「仰げば尊し」なんです。

卒業式は、皆さん一人一人が主人公です。入場から退場まで、あなた以外の誰かではなく、あなたが主人公です。

たとえば、今、私が話をしている瞬間も、あなたのドラマの中では、テレビカメラは、あなたしか映していません。こうして座って聞いている姿が、主人公のあなたです。ずっとカメラが追っています。

たとえば、壇上での誓いの言葉や証書授与はドラマのメインシーンです。焦ったり、急いだりする必要はありません。堂々と、自分自身を表現してください。

たとえば、門出の言葉で送答辞を述べてくれる3人は、まさにクライマックスです。自分が世界の中心であるかのように、時間をかけて、ひと言、ひと言、言葉をかみしめてください。

同じように、全てのシーンを通して卒業式です。全身全霊を尽くして、臨んでください。